

# 広報

## 環境カウンセラーちば

第35号  
 特定非営利活動法人  
 環境カウンセラー  
 千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。  
 環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

### 「新たな歩みへ」

理事長 戸村 泰

2008年はEC千葉設立以来10周年、またNPO法人化されて5周年という節目の年であった。会員みんなで、「環境活動 10年のあゆみ」を表題とした記念誌の発行や、記念パーティーを催し、これまでの活動を顧み、今後の更なる、EC千葉の発展を誓い合った。

2009年はEC千葉の、次なる10年のスタートと位置づけ、新たなあゆみを踏み出す年としたいと思う。

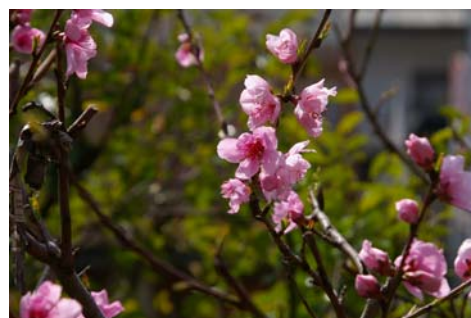
アメリカの金融システムの破綻から端を発した経済不況が、年末年始の東京・日比谷の派遣村に象徴されるように、あらゆる産業で需要の減退の波となって押し寄せ、収入減や失業など我々の生活の周りに、予想を超えてその影響を及ぼし始めている。

100年に一度の経済危機と言われるこの時に、小生の環境活動の原点である、現在の大量生産、大量消費の時代を警告した、1972(昭和47)年ローマクラブが発表した「成長の限界」を思い出した。

「人類がこのままの状態を続ければ、100年以内に人口、汚染、資源、工業力、食料に限界が来て、最も起こり得る結果は、人口と工業力のかなりの突然の制御不可能な減少だろう」と予測している。今回の不況が、この危機に当たるのかは、現在の段階では判断できないが、少なくとも単なる景気循環の不況ではなく、もっと社会の(あるいはライフスタイルの)あり方を警告されたものだと思う。

だとしたら、この経済危機からの脱出を、神から授かった警告と捉え、元の大量生産、大量消費の社会に戻るのではなく低炭素社会、持続可能な社会、そして経済と環境が両立する社会に近づくようにする好機とすべきと心から思う。環境カウンセラーとして、事態を注視し、社会へと発信する努力をしようではないか。

2009年のスタートに当たり、最近のEC千葉の将来に向けた活動の一端を紹介する。



桃の節句も間近

1. 企業・自治体・学校の環境経営をサポートするEMS(ISOやEA21などの環境管理システム)の導入をさらに飛躍的に伸ばすため

①EA21普及には、自治体イニシアティブを利用するなど、一層の協力を努めることを県と相談した。

(H21.1)

②H22年度県との協働事業として、「環境経営システムEA21の普及活動」を提案中

2. 環境学習推進のため

①理科特別講師による特別授業制度に団体として登録(H20年度4人の実績)

②H20年度千葉県委託業務「環境学習地域教材作成事業」を実施。

③山武地区の中学校技術・家庭科の先生方の研究会と環境を授業に取り入れる際の教材、手法について相談した。(H20.12)

④千葉県環境教育研究会発表会に参加し発表予定。(H21.2)

3. H22年度県との協働事業として「地球温暖化防止推進員の養成・ブラッシュアップ研修会の開催」提案中。

4. 水環境対策センター中心で、H21年度千葉県との協働事業「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」が採択された。

これらのように、最近の環境保全活動では、協働する行政、学校、企業等は、

益々地域化、個別化している傾向にある。ECの活動で、カウンセラー個人の力量と共に組織・EC千葉としての協力・サポートの質が重要な課題となりつつある。これまでご活躍の方はもとより新たに活動を志す会員の方々の活動参加を大いに期待したい。

## 「カーボン・オフセット」の 推進に向けた取組について

古口 誠

2008年11月22日、秋季研修会が幕張OVTAにて行われ、環境省地球環境局地球温暖化対策課の仲埜公平氏による講演とワークショップがありました。

### <仲埜氏 講演要旨>

#### A. カーボン・オフセットとは：市民・企業等が、

- 1) 自らの温室効果ガスの排出量を認識し、
- 2) 主体的にこれを削減する努力を行い、
- 3) 削減が困難な部分の排出量を把握し、
- 4) 他の場所で実現した温室効果ガスの排出量削減・吸収量等（クレジット）の購入、他地域での排出量削減・吸収を実現するプロジェクトや活動の実施等により 1)の排出量の全部又は一部を埋め合わせる事。

#### B. 我が国におけるカーボン・オフセットのありかたに関する指針：2008年2月に公表。

#### C. 大きくは2あり、市場を通じて行うもの（例、途上国と日本間で行う）と、市場を通さず特定者間でクレジットの授受を行うもの（例、同じ企業の国内拠点間）がある。

#### D. 市場を通じたカーボン・オフセットの例

- 1) 商品使用・サービス利用オフセット：  
当該商品・サービスと併せてクレジットを購入。
- 2) 会議・イベント開催オフセット：  
会議等の主催者が発生するカーボンをオフセット。
- 3) 自己活動オフセット：自らの活動に伴って排出するカーボンをオフセット。

#### E. 急速に拡大するビジネス

2008年9月時点で290件と急速に拡大中

#### F. カーボン・オフセットの意義

- 1) 主体的な削減活動
- 2) 排出がコストであるという認識と、ライフスタイル・事業活動の低炭素化
- 3) 自らが地球環境問題や京都議定書の目標達成に貢献
- 4) 国内外のプロジェクトへの資金調達

#### G. カーボン・オフセットの課題

- 1) この取組の認識の向上と促進。
- 2) 情報の共有化。
- 3) 取組の信頼性の構築。

#### H. 環境省の取組：

- 1) 指針の発行



#### 2) カーボン・オフセット・フォーラムを設立

URL：<http://www.j-cof.org/>

#### 3) 消費者保護のため、信頼性構築のための情報提供ガイドラインを発行

#### I. モデル事業

採択された事業は9件程度

#### J. カーボン・オフセットで用いられるクレジット

環境省はVERについて2008年3月から検討開始。

\*VER(Verified Emission Reduction)とは京都議定書、EU枠内排出量、取引制度等の法的拘束力のある制度に基づいて発行されるクレジット以外の、クレジット

#### K. 検討中のJ-VER(Japan VER)制度：

削減・吸収活動プロジェクト事業者（例、森林バイオマス活用）が、認定された検証機関で検証され、環境省とその関連委員会に申請し認証を得る。環境省とその関連委員会はクレジットを発行。排出企業等はプロジェクト事業者に資金を出す。

#### L. カーボン・オフセットと森林保全対策についての事例紹介

##### 1) 新宿区と伊奈市

新宿区が排出量分として森林整備委託料を支払い、林整備事業者が間伐等の整備をする

##### 2) 企業と高知県

企業が社員の通勤に伴う排出分を県内のバイオマス事業者に払う。

この後「カーボン・オフセットの問題点と今後の取り組み」をテーマにワークショップが行われ活発な議論が交わされ、下記の結論となった。

#### <カーボン・オフセットの問題点と今後の取り組み>

##### [1] 制度の疑問点と問題点について

- ・ 現行諸施策のチームマイナス6%などとの整合性を明確にする必要がある。
- ・ 消費者向の制度が必要：企業（生産者）と消費者とのクレジットのトレードもある。
- ・ 企業向け制度の中で、中小企業向制度が必要
- ・ サービス業などへの適用方法が不明確（例、廃棄物処理業など）

- ・本制度の普及には景気停滞や物価変動などに配慮した経済活動とのバランスが必要。
- ・本制度の低炭素社会におけるシナリオを明確にする必要がある。
- ・自主的な静かな国民運動のような、あいまいな制度設計ではなく、明確な制度設計が必要。
- ・消費者への普及・啓発が必要。
- ・環境税等との整合性を明確にしたシナリオが必要。

## 最近の豚舎—

### 臭気の少ない、排泄物を出さない豚舎

阿部 邦夫

千葉県は北海道に次ぐ畜産県です。私が住む北総台地は特に養豚業が盛んです。以前は家畜排泄物による公害問題が多かった様です。一昨年施行の‘畜産排泄物の適正処理に関する法律’により厳しく規制されています。今回はほとんど排泄物を外部に出さない、臭気の少ないそして比較的安価に豚舎を建設した(有)下山農場を訪ねました。これは日本のみならず私が関係したマケドニアやセルビアに紹介したい技術です。更には排泄物を外に出さない究極の豚舎を作った小堀屋畜産の様子もお伝えします。

☆下山農場 (パソコン検索 山下農場→農場案内→第三農場) は三つの農場を持っていますが旧飯岡町にある第三農場がそれです。6棟の豚舎があり1棟は750m<sup>2</sup>で500頭の豚さんが飼育されています。小さい豚さん達は豚舎ではカケッコをして埃を上げては遊んでいます。出荷前の120kgの豚舎ではさすがに床は湿っていて半分潜って楽しんでいました(写真下)



豚さん達は20kgで同じ豚舎に入り120日で120kgに成長して出荷されます。その短い一生で排泄した糞尿はその間外部に搬出される事が無くそのまま豚舎の中で発酵・分解されます。豚舎には80センチに木屑が敷き詰められます。(写真右上左) その木屑には現地竹やぶから集められた腐葉土を使った‘ぼかし’が大量に混合され糞尿を分解する働きをしています。

[II] 今後のカーボン・オフセットの取り組みについて  
—環境カウンセラー千葉県協議会として—

- 千葉県のバイオマスタウン計画への活用。
- バイオマスなどの地場産業への活用。
- 地産地消の普及への活用。

\*\*\* 講演を聴いて \*\*\*

ワークショップを通じ色々な情報や意見も聞くことができ、勉強になりました。自主的な取り組みも可という点が良いという思いの一方で、昨今の経済状況の中で現実的に機能するのだろうかという思いが混じり、複雑な心境でした。(古口 誠)

豚肉の美味しい食べ方： By 下山農場  
しゃぶしゃぶ用の豚肉、ほうれん草、だし昆布  
昆布でダシを取る。大目の日本酒を煮立て、  
ほうれん草を入れ、しゃぶしゃぶの要領で好みの  
味で食す。毎晩でも食べられるので常夜鍋という。



750×0.8=600m<sup>3</sup>もの反応床が敷かれているのです。

豚さん達が出荷されると反応床は全て外部に運び出され自然発酵されます(写真上右)そして再びもとの豚舎に60センチ分戻されます(450m<sup>3</sup>)余剰が出ればそれは完熟堆肥として畑に散布されます。私は手に持って臭いを嗅いでみましたが豚の臭いはしませんでした。この量はたぶんダンプ数台程度でしょう。残りの20センチ分は新しい木屑が入れられます。この方式で下山農場では病気の少ないSPF豚を生産しています。HACCPに準じた管理をしていて外部からの見学は制限されています。

☆小堀屋畜産(本社は旧小見川町 小林社長)

上記の豚舎を究極まで追求して完成させたのが小堀屋畜産の‘ファームクリーンWオーガー’です。下山農場に近い銚子市に農場があり全く糞尿を出さない豚舎があります。この技術は特許出願されています。(小堀屋畜産→商品紹介→ファームクリーンWオーガー) 此处では上下左右に攪拌するダブルスクルー式の攪拌機が稼動して万遍無く床を攪拌しほぼ完全に糞尿を分解しています。2年間は全く外部への搬出はないとの事です。床は素晴らしい有機肥料になっていると思います。こちらは見学可能です。



EC 千葉設立 10 周年記念行事  
十和田八幡平

中川 文子

新幹線の車窓には黄金の穂が陽に輝き、10月1、2、3日への期待感が一層膨らんだ。盛岡駅に小角さんの迎えを頂いた20名は八幡平頂上へとバスを走らせた。途中数日前の初冠雪が点々と続き早い冬の訪れを感じながらアスピーテラインを快適に上る。本来高木のオオシラビソ（アオモリトドマツ）は這う様に枝が下がり、積雪量の多さや樹氷の融雪が遅いという厳しい寒さ、強風を物語っている。

噴気地帯を走り秋田県へと進み、湯治場の玉川温泉を散策、強い硫黄の環境にイソツツジ、ツタウルシ等の植物が地面に横になる姿は景観を和らげているようで、癒された。

熱い噴気を屋内に引き込んだ床面を暖めるオンドル宿舎の後生掛温泉に宿泊、別棟には大勢の湯治客の姿があった。翌日宿舎近くのネイチャートレイル（自然観察路）を回った。大正6-7年頃から成長し始め、間欠的に噴き飛ばされた泥火山や泥壺の姿に、まるで原始の世界に身を置いて居る様であった。



後生掛温泉 泥火山

八幡平頂上からの自然観察路は、赤い実のマイズルソウが見られた鏡沼、スマレ咲くメガネ沼、展望台からの眼下に広がる八幡沼一周へと歩を進めた。草紅葉を楽しみ、木道の傍らにチングルマ、エゾオヤマリンドウの名残に出会う。

豪雪地帯では夏まで残雪があるくぼみや風下の場所を雪田といい、その周囲は常に多湿で、植物の生育期間も短いという。その雪田の流失防止、植生回復の為にネットが施されていた。尾瀬にもあった湿原の泥炭層にできる池沼「池塘」も出現、高さを違えている正確さに、新たな感動を覚えた。

ミネカエデやヤマウルシに染まる八幡平を後に十和田湖へと向かう。

翌朝、湖畔に乙女の像を訪ねた。杉の古木が並ぶ十和田神社の参道では、蛇が出迎えてくれた。2年前に開通し、雪深い地に住む人々にも便利になった宇樽部バイパストンネルを通り奥入瀬へと。海拔400mの十和田湖は紅葉の美しさと共に、3里半(14km)の奥入瀬川へと溪流を潤す。八甲田山麓の睡蓮沼は青空や紅葉を映し、カツラ、ヤマウルシ、ハウチワカエデが山を粧っていた。

サワクルミやブナ林、溪流の心地良さをいつの日にか歩いて楽しみ、又美味というブナの倒木に群生するブナハリタケを味わいたいと思った。沢山の真っ赤なを付けたナナカマドの街路樹、今も忘れられない。恵まれ過ぎるほどのご指導を頂き有難うございました。

「緑化エコリーダーになろう」

発行にあたって

ECU「自然環境保全・緑化」担当常務理事

小角 浩

本年2月、東京商工会議所編、環境カウンセラー全国連合会著として中央経済社から標記図書が発刊されました。本書は、東京商工会議所が2006年から進めている「環境社会検定試験（eco検定）」の合格者（エコピープル）に対する部門別スキルアップ事業の一環として行われている、シリーズものの一つとして位置付けられています。

ECU加盟各協議会代表から推薦された約20名の共同執筆です。ECCから倉田さんと私が参加しています。

今後は各地の商工会議所と連携し、このテキストを使用して研修を実施し、エコリーダーの養成に関わることとなります。具体的な研修方式は今後詰めることとなりますが、目下、各加盟協議会代表宛、研修講師の推薦をお願いしています。

なお、環境カウンセラーとの関係については、エコピープル受験→エコリーダー受講（→環境カウンセラー応募の順列を標準、と関係者間で了解しています。

ただし、制度的には全く別個のものですから、カウンセラーが自主的にエコピープル、エコリーダーを目指すことは自由であり、地域における環境の輪を拡げる趣旨からは望ましい事とも言えましょう。

## マケドニアの技術支援

藤田 忠弘

2006年12月から2008年12月まで、EBRD（欧州復興開発銀行）のTAM(Turn Around Management)プログラムの一環として、マケドニアの首都スコピエの熱供給会社（トプリフィカチア：Toplifikacia AD）の省エネルギーの技術支援を行った。

EBRDというのは、東欧圏並びに旧ソ連圏諸国の市場経済化への移行支援を目的に1991年に設立された国際金融機関であり、TAMは環境技術改善に主眼を置く支援プログラムである。

トプリフィカチア（トプリーフとは熱の意味）は市内4箇所のボイラー施設から、暖房用として、140℃の加圧熱水を、総延長183kmに及ぶ配管ネットワークを通して、アパートやオフィス等に循環している。配管は、スコピエに壊滅に近い打撃を与えた1963年の大地震の後の復興と並行して敷設されたもので、随所に配管の腐食による漏れが生じている。この腐食部分からの漏水量は、1日約2000トンと極めて大きく、コスト的にも、熱水1トン当たり5ユーロと言うから、毎日1万ユーロずつ捨てていたことになる。この漏れ量については、クッションタンクへの補給水量から正確に把握できるが、地下を走る配管からの漏れの位置については、おおよその位置はわかってもピンポイントでの決定が難しく、お手上げの状態であった。

我々は、磁力線による配管探知機や、コリレーター（漏れがあると思われる部分を挟む両サイドのマンホールで、夫々にセンサーを貼り付け、漏れ位置からの漏水音の時間差から漏れ位置を特定する装置）等を持ち込んでデモを行い、漏れがあると思われる3つの配管について、正確に特定することが出来た。翌日舗装された地面を掘りあげると、3箇所とも裸になった配管から、噴水がおきていた。

トプリフィカチアに、装置一式を購入させて、昨年のオフシーズン（4月15日～10月16日）の間に、精力的な漏れ箇所探索と修理を行い、漏れを壊滅することが出来た。

その他、バルブとフランジが全く保温されていない（ブルガリアの時も同様であった）のには恐れ入ったが、日本での写真を手本にしてほぼ満足な状態とした。これらの結果、2万トン強の二酸化炭素削減（全量天然ガス化が完了すれば10万トン）と、200万ユーロ強のコストダウンに成功した。

### 磁力線による配管探知機操作実習



漏水ポイントの掘削—噴きあがる水



### 新入会員の紹介

中嶋 和彦（なかじま かずひこ）

（事業者部門・浦安市）

ファインケミカルプラント及び光ディスク工場建設、製造管理、化学品研究開発、排水処理等に従事。パートも含む生産管理経験豊富。現在、ISO9001、ISO14001の審査員。過去にはこれらの中小企業へのコンサルタントの経験も多い。還暦を過ぎたので、主として環境関連で少しは役立つことがないかと思っている。

広田 由紀江（ひろた ゆきえ）

（市民部門・浦安市）

主に幼稚園・保育園・小中学校の授業・行政主催の講座や公民館講座等、広く環境学習に携わっている。年間で100回ほどになるが、最近は「幼児教育における研究課題として環境学習を取り入れたい」という相談もある。日常ではソーラークッカーを使った実験や調理、省エネクッキングに取り組み、楽しんでいる。これからも環境学習に邁進していきたい。



## エコライフ八千代の活動

有馬 富穂

当会は八千代市に在住又は在勤の「千葉県地球温暖化防止活動推進員」により構成され、千葉県、八千代市と地球温暖化防止活動に関し協働しながら、市民団体、企業、行政などとのパートナーシップにより地球温暖化防止活動を推進することを目的にしている。平成18年8月に設立。会員は12名でECは本間と有馬。活動の特筆すべき点は、月定例会議に市の環境保全課とクリーン推進課の職員が出席し、環境諸問題について会員と共通認識し問題解決に協働できることである。主な活動実績は、

### 1. 市民サポートセンター祭りに出展

平成18年、19年、20年の市民サポートセンター祭りに出展し、多くの人に温暖化防止を訴えた。また、エコメッセ2007、2008にも活動を展示した。

平成20年6月には緑が丘イオン店からの要請で、地球温暖化防止をテーマにした出展を行った。

### 2. 環境出前講座

緑が丘公民館子どもエコ教室、語り学び合いの会（東南公民館）、東葉サマーコンサート（緑が丘イオン店）などへ出前講座を行い、謝金は活動費に活用している。

## 日本科学未来館見学記 野口康男

平成20年度第1回施設見学会として、平成20年9月12日（金）日本科学未来館見学が実施された。参加者（戸村、服部、古畑、土田、山口、長谷川、佐藤、茂利、野口）

日本科学未来館は、科学技術を文化として捉え、私たちの社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための場、サイエンスミュージアム、最先端科学技術の情報発信拠点として建設された。科学の歴史を紹介する科学館は多いものの、常に最先端の科学技術を展示公開しているのは世界でもここだけ。元宇宙飛行士の毛利衛さんが館長である。

活動の中心にあるのは、先端の科学技術で、これは私たちの現在を変革し、次の時代を切りひらく大きな可能性をもつ「新しい知」として、先端の科学技術が人間の知的活動という視点で捉え私たちが豊かにする文化の一つで社会全体で共有しようとの願いがある。

中秋の名月のイベントとして、JAXAの月周回衛星「かぐや」の打ち上げ1周年記念イベントが開催されていた。



### 3. ごみ削減活動

市施設からのCO<sub>2</sub>排出量はごみ焼却によるものが8割を占めている。平成19年から可燃ごみの削減に取り組み始めた。平成19年11月にごみ削減の先例「横浜G30」の講演会を開催し、94名の参加者を得た。この取り組みには市職員全員参加の仕組みが必要であるので、エコアクション21の認証取得をお願いし、我々がバックアップしている。

### 4. 自ら行う率先行動

平成19年度は「車を控える活動」、平成20年度は「ごみ分別実験」を会員各人が実施し、有意義なデータが得られ、これを出前講座などで披露している。

### 5. 情報発信

「エコライフやちよ」のブログで、写真入りの情報を発信している。

<http://blogs.yahoo.co.jp/fujikazu32000>



「かぐや」の打ち上げ及び「かぐや」から撮影した「月面のクレーター」や月の裏から見た「地球」の映像を横8mはあるかと思われる大型スクリーンで紹介、大迫力であった。そのほか「GEO-COSMOS」大きな地球儀「宇宙から見た地球」や「ドームシアターGAIA」・・・これは『世界で最も先進的なプラネタリウム投影機』としてギネスワールドレコードに認定された世界最多・500万個の恒星を映し出す最先端のプラネタリウムで、目が釘付けになった。昼食はシャトルコロッケがおすすめ！お台場にはほかにも多くの特徴のある展示設備があるので、ぜひ一度見聞を。

## 環境学習 大多喜高校

環境学習センター副センター長 阿部邦夫

2008年11月27日に大多喜高校1,2年の英語科クラスで「バイオマスの利活用—牛糞で自動車が走るってホント!!」の授業を行いました。

大多喜高校はエネルギー環境教育センターからエネルギー教育実践校の指定を受け、3年間に渡り特別授業を行っています。千葉県資源循環推進課を通じて正式にバイオマスの講義の依頼を受けたものです。

バイオマスプラントから学校までは往復150kmもあるため我がメタン自動車では行けない(120kmしか走れない)ため、メタンバイクを小型トラックに積んで出かけました。

1・2年の英語科の生徒各30名を別々に各50分の授業を行いました。まずは玄関でメタンバイクを見せ、牛糞を発酵させたメタンガスが燃料であること、排気ガスはCO<sub>2</sub>とH<sub>2</sub>Oで無臭であること、したがってクリーンであることを体験し、「カーボンニュートラル」の意味を理解してもらいました。

教室ではEC千葉環境学習センター作成の「バイオマス利活用」の教材と、更にトウモロコシ40粒で作ったボールペンを配布してからバイオマス利活用の話をしました。最初は2年生のクラスで行ったが大声で喋る子(女子)が数人出現!講師は少しも慌てずその子に質問し意見を言わせてそれに答えながら強烈に臭いバイオガス(硫化水素の臭い)を嗅がせてビックリさせた上で話を進めました。ところが1年生は借りてきた猫のようにおとなしく拍子抜けしました。

質問やアドリブで時の話題を取り入れて授業を行いました。私も先生も生徒も含めてもっと利口な消費者にならなければいけないなどにも話が及びワイワイガヤガヤで時間が過ぎました。後日担当の藤井先生からアンケート調査の結果が送られてきました。それを見てビックリしました。ナント私が伝えたかったことはほとんどキチンと伝わっておりました。

授業は礼儀正しく、厳粛に一方的にやるのも良いが、対話をしながら関心を持たせ、同じ土俵でワイワイやるのも良いもんだ!と痛感した授業でした。

## 記念誌作成に際して

記念誌作成責任者 二宮 恵

平成20年6月の理事会で、今年は環境カウンセラー千葉県協議会が発足して10周年にあたり、どんな行事を行うかという話になり、行事の一つとして記念誌を発行してはということになった。あまり欲張らずに出来る範囲で作ろうということだった。しかし、取組み始めてみるとああだ、こうだといろいろと発展的な意見がでてきて収集がつかなくなった。何のために発行し、どんな記事を書けるか?

最終的にはEC千葉に係わりのある記事で記録を主とし、将来の前向きなこと、個人の活動は掲載しないこととした。その線引きが難しかった。それでも各部、各センターの活動などでは記述内容でもめることもあった。そういう意味では、記念誌に記述するために当協議会のあり方を考えさせられることが多々あった。

平成10年から活動を開始しているがその当時のことがよく分からず、その当時の広報や現在もご活躍の小角さんや有馬さんのお力を借りて何とか形になった。

毎月の理事会とは別に4回の編集会議を経てやっと出来たが、費用の面もあり、300部印刷にとどめ、会員には全員に手渡し又は郵送した。官庁、県、自治体・商工会議所、関係団体などへは基本的には最も身近な者が持参することで対応した。

配付した方からは「NPOでこんな立派な記念誌を作成するとは!!」とお褒めの言葉を頂いたとの報告が多く当事者としては、これら評価は有り難い限りである。発行内容に誤植、落丁があり修正版の配付を行ったが、徹底したか心配ではある。

修正したファイルをPDFファイルとしてHPにアップしているのが必要に応じてみていただきたい。

<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/>

私自身机の横に置いているが見るたびに感無量で嬉しく思っている。



野口 久氏(野田市) 堂本知事から感謝状 平成20年度環境功労者表彰 (08.12.22)

野田市の環境審議会委員を18年、千葉県環境審議会委員を8年務め、また地域での地道な環境保全活動が評価された。EC千葉ではEMS支援センター幹事を務めている。ISO14001及びISO9001内部監査員養成講座講師として毎年千葉商工会議所で教壇に立たれ、受講生から分かり易いと高い評価を受けている。

### 総務部からのお知らせ

寄付金(2008年7月21日～2009年1月20日)

戸村 泰様	31,250 円	山本光男様	28,500 円
林 正徳様	4,500 円	有馬富穂様	13,500 円
自然観察会様	6,900 円		

ありがとうございました。

ECU 便り

土田 茂通

昨年6月開催の定時総会で上田理事長(EC 埼玉)が就任、それまで事務局長に集中していた業務を分散させる為に役割分担を明確にした運営が始まった。

- ☆ 管理部門担当：古里副理事長(EC 東京城北)  
佐々木副理事長(EC 風人茨城)
- 総務委員会(川口委員長・EC 埼玉)
- 広報委員会(片亀委員長・EC ぐんま)
- 財務委員会(西村委員長・EC 杉並)
- ☆ 事業部門担当：鈴木副理事長(EC 杉並)  
高井副理事長(EC 大阪)
- 低炭素社会委員会(今井委員長・EC 東京城南)
- 人材認定記録管理委員会(山下委員長・EC ひょうご)
- 緑化委員会(小角委員長・EC 千葉)
- 環境教育委員会(小林委員長・EC 東京城南)
- 業務開発委員会(宇田委員長・EC 大阪)
- ☆ ブロック協議会：
  - 全国ブロック協議会連絡会長(土田会長・EC 千葉)
  - 北海道1、東北6、関東15、中部3、近畿4、  
中四国2、九州3。各ブロック長は理事が担当
  - 関東ブロック協議会(土田会長・EC 千葉)
  - 今年度の活動
    - ① 平成20年度環境省主催「EC 研修会」の企画  
運営業務を受託
    - ② 環境政策提言研究会を設立、環境省に応募する  
環境政策提言を準備中
    - ③ 環境学習インストラクター認定登録

### 第7回総会のご案内

日時 平成21年5月24日(日)13時～

会場 千葉市民会館

特別講演：海洋研究開発機構 菊池 隆 氏  
仮題「地球温暖化について～北極海の現状」

総会終了後、懇親会、新入会員歓迎会を開催予定  
会場はペリエホール

詳細は4月20日ごろ案内状を送付します。

会員の皆さまの多数の参加をお願いいたします。

### 地域短信

- ♪ 新たな行動規範、ライフスタイルとして注目される3R。新年明けて早々の1月11日、3Rの知を問う検定試験が東京・京都・大阪で実施された。
- ♪ 食品に関わる「行政・製造・消費者」を経験した視点でEC仲間が「食の安全安心情報」を毎月1回発信しています。4回目に当たる2月は「食品企業とコンプライアンス」購読希望の方は下記アドレスまで。  
[mihara@w4.dion.ne.jp](mailto:mihara@w4.dion.ne.jp)
- ♪ 昨夏、緑のカーテンに取り組みゴーヤを植えた。収穫物をもてあますかと思っただのは杞憂で、2株から市販の半分位のものが5個ほど採れ、使いやすく美味であった。聞けば小さな品種もあるとのこと。窓の外は緑がさわやかで、部屋は確かに涼しかった。

——編集後記——

- ☆ 本号はH20年度の最終号になります。入稿直前に見つけた入力した覚えのない、いくつかの活字。松本部員のお手柄でした。関係者の協力のもとに広報は仕上がっています。来年度もよろしく願っています。 倉田 智子
- ☆ 怪我の予後の体調不良で、編集作業はサボリ勝ちでしたが仲間に助けられ感謝、感謝です。有難う御座いました。 本間 格

### 広報 環境カウンセラーちば 第35号 (発行日 2009年3月1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会(発行責任者：戸村 泰 会員：128名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方(郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 [ec\\_chiba\\_exec@yahoo.co.jp](mailto:ec_chiba_exec@yahoo.co.jp)(各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692(加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会)会費はこちらに！

編集：広報部 倉田智子・本間 格・上口清彦・二宮 恵・松本源寿・佐藤素子

E-Mail [fwkd4421@ymail.plala.or.jp](mailto:fwkd4421@ymail.plala.or.jp)(記事寄稿先)

再生紙を使っています。